

Ⅱ-117 仙台市近郊のサーファーの動向調査

東北工業大学 学生員 ○千葉 透雄

東北工業大学 学生員 渡部 一徳

東北工業大学 正 員 高橋 敏彦

1. はじめに

海岸法は、昭和 31 年に制定されて以来、大きな改正は行なわれていなかったが、時代の要請に対応した海岸管理を行なうために、抜本的に改正され、新海岸法が平成 12 年に施行された。新海岸法の一番の改正点は、従来の防護だけの目的に「環境」及び「利用」を追加したことである。海を利用した身近なレジャースポーツの代表的なものの 1 つとしてサーフィンが挙げられる。しかし、サーフィンに関する調査研究例は少ない。そこで本研究は、始めに仙台市近郊の surfer の動向を調査し明らかにする事を目的とした。

2. 調査方法

2-1. 調査場所

宮城県仙台市近郊の surfer の動向を知るために、始めに仙台市近郊の surf spot を検討した。surfer がサーフィン(surf-riding)に行くときに、波の状況や surfer の込み具合等を知るのに波情報サイト(有料)を利用することが多い。そこで本研究では、仙台市近郊の主要な surf spot の surfer の動向を波情報サイトより検討した。surf spot は、図-1 に示すように菖蒲田、仙台新港、荒浜の河口とプールの 4 地点であり、いずれも仙台市近郊では surfer に知られている surf spot である。

図-2 は、平成 16 年 8 月 3 日(火)～8 月 29 日(日)までの各 surf spot における surfer の延べ人数である。ただし、午前 4:00～7:00 頃に発表される 1 日 1 回分の surfer の合計人数である。図より、仙台新港の surf spot が他の surf spot に比べ surfer に圧倒的に多く利用されていることが分かる。そこで仙台新港を現地調査対象 spot とした。

図-3 は、仙台新港の surf spot の概略図である。仙台新港の南防波堤の南側で蒲生干潟の北東側に位置している。

2-2. 調査日及び調査項目

調査日は、平成 16 年 8 月 30 日(月)～9 月 19 日(日)の間の 7 日間で、午前 5 時から午後 5 時まで毎整数時前後の計 20 分間である。調査項目は、surfer の人数(男女別、long board、short board、body board 使用別)、気象条件(天候、気温、風向風速)、波浪(碎波波高、海水温、サーフィンに適否の判断)状況である。調査人数は調査海岸で海に入っている人、board を持って砂浜を歩いている人を対象とした。

3. 調査結果及び考察

3-1. 曜日及び時間毎の surfer の人数

図-4 は、横軸に時間帯、縦軸に人数をとり、連続ではない

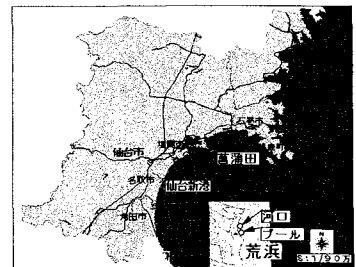


図-1 仙台市近郊の surf spot

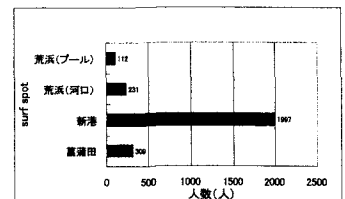


図-2 各 surf spot の延べ人数

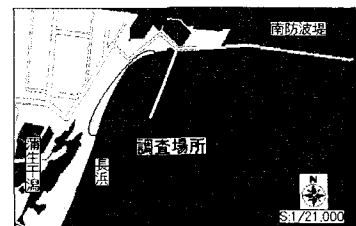


図-3 仙台新港の surf spot の概略図

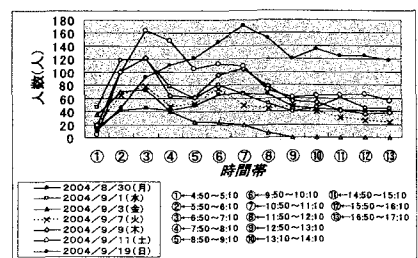


図-4 調査日の surfer の人数変化

が、日曜日から土曜日までを含んでいる調査日・曜日をパラメーターとして図示したものである。ただし、9月3日(金)は台風の影響により海がかなり荒れており、surfer の人数も昼頃には0人となったため以降中止としている。図より、日曜日の⑦10:50~11:10の172人をピークに、8:50~17:10 迄ほぼ120人以上の surfer が認められる。次に、surfer の多いのは土曜日の③6:50~7:10の164人で、土曜日の5:50~11:10までの午前中は常に100人を越えている。平日は、各曜日とも②③の5:50~7:10までが1日の中でほぼピークを示している。また、平日の中でも水曜日、木曜日の人数が全体的に多くなっているのが認められる。これらの事から、仙台市近郊の多くの surfer は、日曜日はゆっくり出かけ昼近く、土曜は午前中の早い時間帯に、平日は水、木曜日を中心に仕事または学校へ行く前にサーフィンを楽しんでいるのではないかと考えられる。

3-2. surf board の形状割合

図-5(a)~(c)は、調査期間中の延べ人数5,847人の男女別、および男女による surf board 別の割合を示したものである。図-5(a)よりサーフィンをしている男性と女性の割合が9:1程度となっている事がわかる。図-5(b)より男性の使用 board は、short board が一番多く、また図-5(c)より女性の使用 board は、body board が一番多い事が認められ、それぞれの特徴が現れていると思われる。

石川・酒匂¹⁾は long、short、body board の順にサーフィン可能碎波波高は低下すること、初心者には波高が低い条件でのみ可能であることを報告している。また、short board は long board に比べて操作しやすいので速く崩れる波に対応しやすいとされている。これらのことを考慮すると仙台新港の surf spot は、short、body board に適した波浪で、特に女性はサーフィンに入り易い body board から始めた初心者が多いのではないかと推察される。

3-3. 8~12月の仙台市近郊の surf spot の人数

図-6は、午前4:00~7:00の波情報より、仙台市近郊の4地点の8月から12月までの月別 surfer の延べ人数を表したものである。ただし、9月27日(月)と12月14日(火)は4地点欠測、10月24日(日)は新港が欠測、12月15日(水)は荒浜2地点の欠測があった。図より、いずれの surf spot も気温の低下と共に surfer の人数は減少している。ただし、気温の低下だけではなく調査時刻が早朝なので、日の出が遅くなっていることも大きく影響していると思われる。12月23日(木)祭日の午前10時頃には仙台新港では雪の舞う日にもかかわらず約60名の surfer がサーフィンを楽しんでいた。

4. おわりに

今回は、仙台市近郊の surfer の動向を調べる事を目的とし主に現地調査より検討を行なった。その結果、surf spot や surf board の利用状況、surfer の男女比等が明らかになった。また、波浪と surfer の関係等も検討したが紙面の都合上割愛した。今後アンケート調査等を行ない更に検討する予定である。

<参考文献>

- 1) 石川仁憲, 酒匂敏次: サーフィングレンドの特性とグレンデ計画要件に関する研究, 海洋開発論文集, Vol. 13, pp. 171-176, 1997

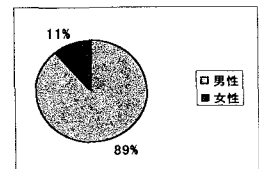


図-5(a) surfer の男女割合

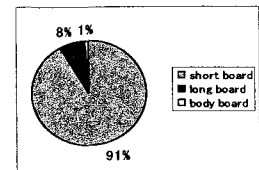


図-5(b) 男性の board の割合

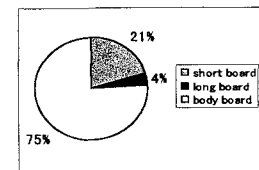


図-5(c) 女性の board の割合

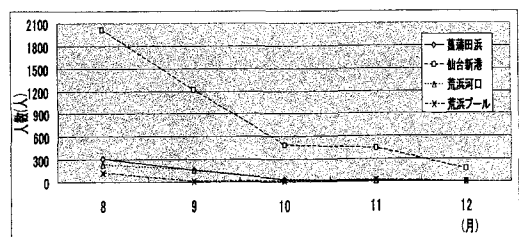


図-6 各 spot の月毎の人数変化